

女子七種競技 上位狙う兵庫勢 11日から日本選手権混成

リオデジャネイロ五輪代表選考会を兼ねる陸上の日本選手権混成競技が11、12日、長野市営陸上競技場で行われる。中学時代から兵庫代表として全国大会で活躍してきた同世代の宇都宮絵莉（長谷川体育施設、園田女大出）と西村莉子（武庫川女大大学院）が女子七種競技で上位進出を狙う。（井川朋宏）

スタイル変え自己新

宇都宮は今春の日本選抜和歌山大会で飛躍。自己ベストを200点以上上回り、日本歴代4位（当時）の5668点をマークした。

かつては後半の得意種目で得点を稼ぐ意識だったが、序盤の100m障害、走り高跳びから勢いついた。「自分のスタイルは変わった。一つ一つ自己ベストを目指せば結果は付いてくる」と自信を示す。園田女大4年だった昨秋は日本学生対校選手権で3位。不本意な結果に終わり、卒業前も練習を継続した。ハードリングや跳躍の空中動作など苦手分野の克服に取り組み、名門の長谷川体育施設（東京）入りが決まった。

実業団でも園田女大に拠点を置き、競技に集中できる環境が整った。「昨年は分からないまま結果が出たが、今年は体の使い方を頭で理解できている」。前回は調整不足で5位に終わった日本選手権で成長した姿が見られそうだ。

宇都宮絵莉（園田女大出）



上野原でも成長を続ける宇都宮絵莉（園田女大出）

五輪目指し就職撤回

立命大時代に専門の指導者が不在だった西村は、単独練習を中心に記録を伸ばしてきた。昨秋の日本学生対校選手権では自己ベストを大幅更新する5345点で2位。卒業後は就職して競技を続けるつもりが、冬場に参加した日本陸連の強化合宿を機に方針転換した。

他選手に刺激され、専門的な指導を受けるうち「五輪に出たい。成長するにはこのままではいけない」と心に火が付いた。就職を撤回し、混成の指導者を求め、武庫川女大大学院に進学した。

5月の関西学生対校選手権では七種競技に加え、やり投げでも優勝。「単独でも勝負できるレベルになる」と得意種目を伸ばす構えだ。日本選手権は昨年6位。「(上位に)食らいつきたい」と果敢に挑む。

西村莉子（武庫川女大出）



関西学生対校選手権でやり投げと七種競技の二冠に輝いた西村莉子（大阪府、ヤンマーフィールド高尾）